

大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究

Investigation and research on the hanging scrolls owned by the Otsuma Women's University Museum

青木 俊郎¹, 高塚 明恵¹, 下田 敦子², 高橋 舞²
Toshiro Aoki¹, Akie Takatsuka¹, Atsuko Shimoda², and Mai Takahashi²

¹大妻女子大学博物館, ²大妻女子大学人間生活文化研究所

キーワード：大妻女子大学博物館, 掛軸, 皇室
Key words : Otsuma Women's University Museum, Hanging scroll, Imperial family

1. 研究目的

本研究では、大妻女子大学博物館（以下、「博物館」と略）が所蔵する掛軸資料について、撮影と調査を行った。

博物館では、掛軸資料を約 120 点所蔵している。これらの多くは、平成 19 年（2007）に整理された大妻コタカの遺品の中にあつたものと思われるが、その来歴についての詳細は不明である。そのため、これらはどのような内容を持つ資料群なのか、またその来歴と年代、内容、そして利用の実態などについて詳細な調査が必要である。

今回の調査では、掛軸資料約 120 点のうち、特に重要と思われる、①大妻の教育に関するもの、②皇室に関わるもの、を抽出し、採寸・撮影を行い、内容（文面、作者、作成年代等）について検討する。あわせて、関連資料を参照し、資料の利用実態、収蔵されるまでの来歴、作成目的などについても調査を行う。

2. 研究実施内容

掛軸資料 53 点について、採寸および撮影を行った。そして撮影により得られた画像データを整理・分析し、各資料の内容、作者などの調査を行った（写真 1）。調査の結果、掛軸資料について特徴的であると思われる点を 3 点述べる。

まず第 1 点目として、教育標語として使用されたとと思われる掛軸の存在である。具体的には、「貞淑温雅」（写真 2）・「質実勇健」・「機敏快活」など、四字書の掛軸が 6 点存在した。これらの掛軸は、講堂などに掲示され、教育上の標語として学生に示すものとして使用されていたものと考えられる。



写真 1. 採寸・撮影の様子

実際、当館で所蔵している昭和 4 年（1929）の写真には、「貞淑温雅」の掛軸が見える（写真 3）。この写真を見ると、当館所蔵掛軸と字形が同一に見えることから、昭和 4 年の写真に写っている掛軸は、当館所蔵の「貞淑温雅」の掛軸である可能性が高い。

また、戦前の旧校歌の歌詞を記した掛軸が 2 点確認できた（写真 4）。戦前の大妻学院では、朝礼の際、校歌を歌っていたことから（『大妻学院八十年史』学校法人大妻学院、1989 年、183 ページ）、この掛軸は、朝礼時に使用されていた可能性が考えられる。

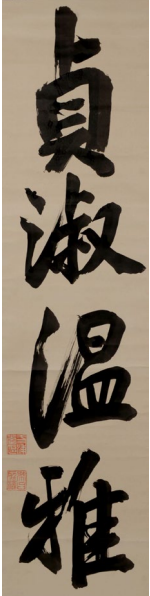


写真2. 掛軸「貞淑温雅」

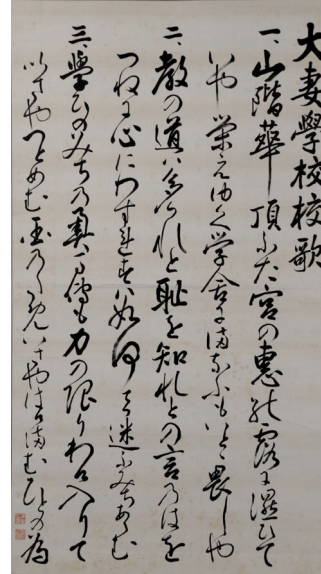
写真3. 昭和4年(1929)の写真における掛軸
「貞淑温雅」(部分拡大)

写真4. 掛軸「大妻学校校歌」

第2点目として、天皇・皇后関係の掛軸である。ここでは、明治天皇御製（天皇が作った和歌）が20点、昭憲皇太后（明治天皇皇后）が作詞した歌（「金剛石」・「水は器」など）が3点存在した。

特に昭憲皇太后の歌(写真5), 旋律をつけられ、全国各地の女学校で詠唱された。大妻学院でも、大正11年頃から昭和20年まで、朝礼時に歌われていたという(『大妻学院八十年史』183ページ)。その際、この掛軸が使用されていた可能性がある。これらの掛軸は、戦前の大妻教育における皇室の影響を示す、重要な資料である。

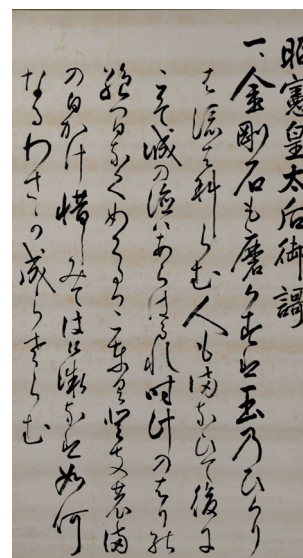


写真5. 掛軸「昭憲皇太后御歌」

第3点目は、著名人の書が存在する点である。具体的には、大島久直（1848～1928、陸軍軍人。大妻学院設創設時に場所を提供）の書（写真6）や、鳩山一郎（1883～1959、政治家。揮毫当時は文部大臣）の書（写真7）が存在する。大島は大妻学院の創立と関わりが深い人物であり、鳩山はのちに首相を務めた人物である。これらの掛軸は、学院の重要資料として保管され、それが博物館に伝来した可能性が考えられる。



写真6. 掛軸「大島久直書」

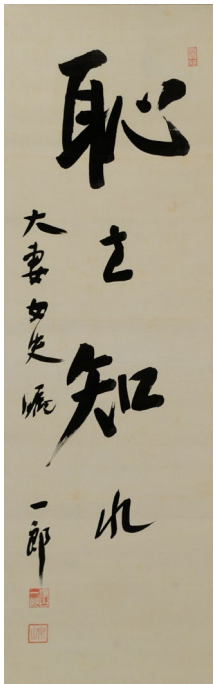


写真7. 掛軸「鳩山一郎書」

3. まとめと今後の課題

今回行った研究により、博物館が所蔵する掛軸は、大妻学院史にとって重要な資料群であることが判明した。今後、博物館収蔵品データベースや博物館における展示などで、その成果を公表していく予定である。

以下、今後の課題について2点述べる。

まず、掛軸資料全体としての伝来過程を考えていきたい。大正から昭和にかけて作成・集積されてきた掛軸の資料群が、どのように保管・管理され、博物館まで伝来してきたのか、今後も調査を続ける必要がある。

次に、全ての資料について、引き続き使用時期、使用場所などについて調査を進めていくことである。先に述べたように、「昭憲皇太后御歌」「大妻学校校歌」などは、朝礼時の歌唱の際に使用されていた可能性がある。大妻の教育が行われていた空間で、掛軸資料はどのような役割を果たしていたのか、重要な課題であると考えている。

掛軸資料それぞれの、作成時期・用途・伝来過程が明らかとなることで、資料個々の歴史的価値がより一層高まるものと考えられる。

4. この助成による発表論文等

①Web サイト

大妻女子大学博物館収蔵品データベース (https://jmapps.ne.jp/museum_otsuma/) において、調査資料の概要・画像を公開予定。

②展示

大妻女子大学博物館特集展「掛軸から見た大妻の歴史と教育(仮)」(2023年10月～12月)を実施し、掛軸資料を展示予定。

付記

本研究は、大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成(K2202)「大妻女子大学博物館所蔵掛軸の調査と研究」を受けたものです。